

平成 27 年実施の将来検討委員会アンケート調査結果①—会員について—

鈴木広幸、石通宏行、中村佐和子、石谷徳人、岩寺環司

キーワード 将来検討委員会、アンケート、会員について

はじめに

全国小児歯科開業医会（以下 JSPP）の小児歯科医療将来検討委員会では、①小児歯科に関わる歯科開業医の将来②JSPP の課題③JSPP の認知度向上と会員増加の為の資料づくりを目的にアンケート調査を行いました。日々臨床や医院経営に携わる先生方の、各々の開業形態、診療様式、JSPP への入会動機や要望などの調査し、その結果を考察することで、小児歯科に関わる歯科開業医の将来を予測し、JSPP の今後の活動の裏付けに、また将来小児歯科に関わる方々が進路を決める際の参考になれば、と思います。

対象と方法

調査対象は平成 27 年 3 月 31 日時点の JSPP の会員、計 406 名。広報委員会に依頼し、アンケート調査用紙（図 1）を、会員誌 JSPP NEWS vol. 52 月分 送付分に同封して調査協力をお願いしました。回答はファックスで送信をお願いしました。送信先は将来検討委員会委員 1 名の診療所宛とし、回答の期限を平成 27 年 4 月末日としました。調査中、回答率を増やすため、締め切り間近の 4 月末に e-mail で回答を求める連絡をし、5 月 10 日を最終の締め切りとしました。調査期間は 1 か月半。回答数は 112、回収率 27.6%でした。

結果

【 会員について 】

① 会員の年齢・性別

（表 1・図 2）

② 開業歴・開院の状況・入会歴

（図 4・図 5）

開院の状況についてのコメントは回答数 43、新規開業というコメントが最も多く 23 件、次に診療所の現状についてのコメントが 9 件（医療法人 2、昨年 から法人化し、2 人の子どもにそれぞれ診療所まかせています。小児患者が ずくなくなりセカンドオピニオンや他医院のトラブルの再治療が多い。大変いそがしいです。近所に歯科・小児歯科が乱立した。小児 7 割弱所沢開業なんと予約は埋っている。じり貧。ボチボチ）、親から引き継ぎが 8 件、診療体制のコメントが 3 件（主人と主人の父との診療。医院の改装を機に 3F を小児に 1F を一般に 2F を MFT 等に分けた。平成 19 年 9 月移転 2 年前より

歯科医・衛生士を担当制にした) でした。

③ 入会の動機・これからの JSPP の活動に望むこと

(図 6・図 7)

入会の動機のその他 21 件の内訳は、発足から入会なので 8 件、案内や勧め 3 件、なんとなく 3 件、情報交換に期待 2 件、雑誌の執筆依頼から、その他に丸印のみ 4 件でした。

これからの JSPP の活動に望むことのその他の 8 件の内訳は、開業医の要望を学会に伝えて欲しい(2 件)、先生方とコミュニケーションを図りたいです(1 件)、学びたい(1 件)、全会員に最低限の小児歯科の知識を持ってもらうこと(1 件)、入会の審査、すべての会員に対し、患者さんを本当に紹介して良いのかまだ不安あるため(1 件)、健康保険制度改善に向けて、国や関係機関への提言。マスコミを使って国民への小児の予防についての啓蒙(意見広告)(1 件)、全国中の小児歯科開業医間のパイプの強化(1 件)、ウィンターフォーラム良かったです(1 件)、でした。

④ 貴医院の後継者対策について

(図 8)

その他 7 件の内訳は不明です、子どもは既に他の道に進んでいる、子どもが医科に進んだ為、現在子弟以外の後継者を探しています、歯学部在学中だが小児歯科は継がないと言っている、歯科大生だが将来後継者になるか不明、本人の希望優先、子どもの意志により決める予定、○印のみ、でした。

⑤ 雑誌「月刊・小児歯科臨床」の購読について

(図 9)

⑥ 小児歯科学会専門医について

(図 10)

その他 9 件の内訳は、ない・持っていない(3 件)、無意味なので更新しなかった(1 件)、認定医を持っていたが小児歯科以外の勉強をしていて更新できなかった、現在はない(1 件)、認定医があれば取得したい。現状では専門医取得はハードルが高すぎる(残念です)(1 件)、取得したいが年令とかで無理らしい(1 件)、検討している、年令的に…(1 件)、○印のみ(1 件)でした。

考察

今回のアンケート調査は、平成 26 年 3 月時点の JSPP 会員を対象に行った調査で回収率 27.6%でした。平成 22 年の国崎が行った JSPP 会員を対象にアンケート調査 1) の回収率 49.2%より少なかったのは、調査用紙の回収に郵送ではなくファックスを使用したこと、返信先に個人の歯科医院の FAX 番号を指定したことが理由と思われました。ファックスでの回答に慣れていないこと、アンケートの内容が個々の歯科医院の現状の詳細を記載しているため、情報漏れを心配したためと考えています。今回は手作業で集計しましたが、集計作業も回収と同時にできるように、今後は匿名性も保たれ、集計も容易なインターネット、開業医会ホームページ上でのアンケート調査を考えていくべきでしょう。

【会員について】

会員は、4 割弱が 60 代で次が 50 代で 3 割、50～70 歳がほぼ 7 割を占めていました。平成 26 年医師歯科医師薬剤師調査（厚生労働省）2) では、歯科医師の年代別構成割合では 50 代 26.5%が最も多く、次が 40 代 22.4%、30 代 18.9%次が 60 代で 18.0%です。JSPP 会員は年齢層が高めで、若い層 30～40 代の新規入会が求められていると言えます。同じ調査で女性の割合は 22.5%、今回のアンケートでは 29.5%なので女性比率が若干高めといえます。しかし小児歯科学会の会員は、約 40%以上が女性で、しかも 20 代から 30 代の女性が 65%を占めていることを考えると、もっと女性会員の割合を増やしても良いともいえます。

開業医会ということで、入会は院長でないといけないと思われていますが、夫婦、親子など開設者以外でも管理的立場の歯科医師は条件が整えば入会できることをもっと周知する必要があります。

開業歴は、20～30 年の割合が他よりも少ない結果でした。ちょうど日本経済がバブル崩壊で不安定だった頃に開業した年代で、経営に余裕がなく JSPP に入会する余裕とタイミングを失ったままにしている状況がうかがえます。新規開業というコメントが最も多かったので、開業時に即 JSPP 入会を検討してもらえようというアプローチが有効といえるでしょう。入会の動機は、JSPP 会員からの勧誘が最も多く 7 割近くを占め、次が学会会場での勧誘（1 割弱）なので、**知り合いのいる『お互いの顔の見える会』である事が入会の 1 番の動機と思われる。**開業準備の時から JSPP 会員が関わりを持ちネットワーク作りを支援する意味でも、学会場の JSPP ブースで開業相談を受けても良いのかもしれませんが。

入会歴は平均 15.2 年で、入会から 0～9 年が最も多く 4 割弱、次が発足当初からで 3 割弱でした。新しく入会の先生と古株の先生の二極化があるようです。新入会と古参の先生それぞれが JSPP に望む活動をしていく必要があります。

これからの JSPP の活動に望むこととして、「独自の学術企画（フォーラム・シンポジウム・テーブルクリニック・講演会など）を開催」が最も多く 3 割弱、次が「患者紹介、診療依頼をしやすく」、「小児歯科学会大会における講演会・テーブルクリニックなどの企画」でした。入会歴の年数層別に JSPP の活動に望むことを見てみると（図 11～14）

「患者紹介、診療依頼をしやすく」は入会歴 20 年以上で割合が高く、「小児歯科学会での企画」が入会 0～9 年の中で割合が高い。「独自の学術企画」は入会 10～19 年で特に高く他の年数層とで差がみられます。「地域での小児歯科活動支援」については各年数層で均一の割合。小児歯科開業医間の依頼紹介をスムーズにしつつ、独自のまたは小児歯科学会での学術企画が求められているといえます。また JSPP が親睦団体の殻を脱しつつあり小児歯科学会にない、臨床に即した企画を望まれているともいえるようです。小児歯科学会大会だけでなく地方会でも JSPP の企画（地域で小児歯科の重要性をアピール、地域の小児歯科医の支援、地域活動のノウハウの伝授など）でより社会的使命が果たせるはずです。その他の自由記載に書かれていた内容は、当然で、開業医の要望を学会に伝えていくこと、全会員に最低限の小児歯科の知識を持ってもらえるような学術企画を考えていくことも大切でしょう。

後継者対策については、3 割以上が後継者を養成済みで、子弟以外の後継者を予定と後継者（子弟）を歯科大学に入学させたいと考えている、をあわせて 5 割以上が後継者を養成または養成する予定といえます。今後、小児歯科臨床の魅力の子弟（歯科大学の学生）にアピールしたり進路相談をしたりする企画があれば、「まだわからない」と迷っている子弟の手助けになるかもしれません。

雑誌「月刊・小児歯科臨床」の購読については、8 割弱が定期購読、読んでいないのが 1 割弱で、知らないと答えたものはいませんでした。「月刊・小児歯科臨床」をみて JSPP 入会した会員もいるため、毎号の JSPP の記事に入会案内等を載せることも考えて良いでしょう。

小児歯科学会専門医の更新については、今後も更新するつもりが 7 割、専門医取得を目指している、更新するか否かはわからない、をあわせて 8 割程度が取得・更新を考えているといえます。JSPP では新しく資格支援委員会を立ちあげ、専門医更新・取得の際に手助けできるよう支援の体制をとりました。更新するか否かを決めかねている学会員には更新するきっかけになると思われます。

まとめ

1. 30～40 代の新規入会、特に女性の増を期待しそのための企画を考える必要があります。

県単位・小児歯科学会の地方会単位では会員偏在の傾向があります(表2)。1名も JSPP 会員がいない県は秋田県、岩手県、山梨県。北日本と中四国の会員が少ないようです。どの地域への転居に際しても安心して紹介できるため、地域での小児歯科医の活動をバックアップするため、地域の現状を報告してもらい把握するためにも、会員の偏在を是正する手立てが必要と考えられます。

2. 入会については、新規開業時に入会、またその動機は、JSPP 会員からの勧誘が最も多いことから、小児歯科学会で JSPP 企画のひとつとして開業相談のブースを設けても良いのかもしれませんが。

3. 会員が JSPP に望んでいるのは、独自のまたは小児歯科学会での学術企画でした。小児歯科学会大会だけでなく地方会でも JSPP の企画があればより認知度が上がると考えられました。

4. 後継者対策、小児歯科学会専門医の取得・更新についても JSPP がバックアップすることが会員の手助けになると思われます。

5. JSPP の活動を会員に積極的にアピールする場として、「月刊・小児歯科臨床」はとても有効であることも確認されました。

参考文献

1)小児歯科臨床第17巻10号2012 小児歯科専門医院か？小児歯科を中心とした総合歯科医院か？－JSPP 会員を対象とした実態調査－ くにさき小児歯科 (福島県福島市) P4-27 国崎幸史

2)平成26年医師歯科医師薬剤師調査(厚生労働省)

<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/ishi/14/index.html>

3)全国小児歯科開業医会 会員名簿2014